

令和元年度 福井県職員クレドアワード(知事賞) 受賞者一覧

【現場部門:3件】

所属	受賞者	概要
★特別賞 土木部 福井土木事務所	福井土木PR隊 (8人)	「PR隊を結成し土木の役割をアピール」 ～生活に密着した土木の現場を分かりやすく紹介～ <ul style="list-style-type: none"> 県内でも建設分野の人手不足や担い手の高齢化が問題となっていることを受け、次の時代を担う子どもたちに土木現場を伝えたいと発起し、若手職員8人が専門分野を超えて集まり福井土木PR隊を結成 生活に欠かせないダムやトンネル、橋などの土木施設の役割について、専門用語をほとんど使わずに分かりやすく説明した子ども向けパンフレットを作成 パンフレット作成にあたっては、迫力ある写真を撮るためにドローンを活用したほか、自分たちではびりゅうの着ぐるみを着て現場を紹介するなど、親しみある紙面に工夫 パンフレットは隊員が管内の各小学校に訪問配布するとともに福井土木HPに掲載 小学校に出向き出前講座を実施し、パンフレットを使い土木施設の役割や防災マップの見方を伝え、子どもたちの土木や防災知識向上に貢献(出前講座実施:令和元年度 4回)
交流文化部 一乗谷朝倉氏 遺跡資料館	主査 藤田 若菜 学芸員 石川 美咲	「一乗谷朝倉氏遺跡の保存と魅力発信」 ～遺跡現場を守り後世に伝える～ <ul style="list-style-type: none"> わが国の重要な文化財であり、本県の重要な観光地である一乗谷朝倉氏遺跡を風雨等による劣化から守るため、国内トップレベルの調査・研究機関である奈良文化財研究所と協定を締結し、自治体として初めて遺跡保存に向けた技術開発に着手 これまでに県が蓄積した遺跡一帯の気象や岩石の種類などの基礎データの収集分析を進め、同研究所からの助言を得ながら、戦国時代の庭石、礎石、石垣などをそのままに「見せる保存・公開」を続けるための技術確立を目指す。 令和2年のNHK大河ドラマに合わせ、主人公の明智光秀と越前とのつながりに焦点を当てた特別公開展を企画し、前年度同期間の約2倍の来場者を獲得 (期間:令和元年4月27日～7月28日 来場者:16,898人) NHK総合「日本最強の城」「歴史秘話ヒストリア」などの全国放送番組や県内外での講演、新聞、ラジオ、雑誌等において、光秀と一乗谷および戦国大名朝倉氏との関係について歴史資料を紐解きながら分かりやすく情報を発信し、本県を強力にアピール
CSF(豚熱)対応に従事した全職員 (農林水産部職員をはじめ1,059人の 職員が現場作業に従事)		「CSF(豚熱)被害対策」 ～関係機関や職員が協働し、現場の被害拡大防止に奮闘～ <ul style="list-style-type: none"> 平成30年9月に岐阜県の養豚場でCSF感染が確認されて以降、県内でも野生動物侵入防止対策などの対応を強化していたが、7月と8月の2度にわたり越前市の養豚場においてCSFが発生 発生後直ちに丹南農林総合事務所に現地対策本部を設置し、県対策本部と連携のもと防疫措置に必要な資材を緊急手配するとともに、地元住民への説明会を実施 現場での防疫措置は、家畜保健衛生所および畜産試験場が指揮を執り、熱帯夜が続く環境の中、延べ1,059人の職員が豚の殺処分、埋却場所への運搬、消毒のための消石灰散布などの過酷な作業に従事 関係県と連携しあらゆる機会を通じて国に要望した結果、飼養豚へのワクチン接種が可能となり、直ちに実施。関係機関や職員同士が連携した対策により、県内養豚農家でのさらなるCSF発生は確認されていない。

【挑戦部門:3件】

所属	受賞者	概要
★特別賞 産業労働部 企業誘致課	参事(企業立地) 谷川 由美子 主事 金居 利昌	「リゾートホテルの福井進出」 ～世界レベルホテルの県内誘致に挑戦～ <ul style="list-style-type: none"> 世界最大のホテルチェーンである米リゾート・インターナショナルの福井への誘致を実現 県内外のデベロッパーやホテル事業者、観光事業者を何度も訪問し、高級ホテル誘致に必要な知識やノウハウを勉強するとともに、誘致に効果的な補助制度を創設 平成30年度から、職員がホテル事業者やデベロッパー、再開発の事業者等と30回以上も面談を重ね、立地の候補地や県内の魅力を熱心にPRするとともに、自らの同社系列ホテル宿泊体験を会話の材料にするなど、積極的に交渉を展開 県都の玄関口となる福井駅西口への高級ホテル進出により、インバウンドも含めた多くの富裕層の誘客や本県の受入環境全体のレベルアップが期待できる。
総務部 大学私学課	主事 吉田 陸	「全国初 高校授業料の公私間格差を解消」 ～思い切った支援策により進学先の選択肢を拡大～ <ul style="list-style-type: none"> これまで、私立高校の教育内容に惹かれ進学を希望するものの、授業料が高いため私立への進学を断念する学生がいるという課題を把握 国が令和2年度から、年収590万円未満世帯の私立高校授業料負担をなくすよう制度を見直したこともあり、県独自の支援制度拡充に向け速やかに検討を開始 検討に当たっては、授業料や入学金の金額の設定、保護者に一時負担をさせないような仕組み、資金繰りの相談など、全ての私立高校との個別協議や調整を、校長から事務担当まで幅広く実施 全国に先駆け、県独自に年収910万円未満世帯まで私立高校授業料を無償化し、約8割の世帯の生徒が無償化の対象となる手厚い支援制度を設計。中学3年生が進路を決定する夏の時期に間に合うよう、令和元年6月議会において提案 公私間の負担格差を解消する制度を早期に設け周知したことにより、私立高校のオープンスクール参加者や令和2年度の私立高校出願者数が増加
農林水産部 農村振興課	主任 村上 明聰 主任 横山 勇一	「福井の先進的な農業を全国の子どもたちに発信」 ～パイプライン活用の米づくりが教科書掲載へ～ <ul style="list-style-type: none"> 九頭竜川下流地域では、大規模パイプラインの整備が完了し、稲作や園芸生産が盛んに行われている。 その生産基盤の先進性を全国の子どもたちに知ってもらうため、平成28年度から教科書出版会社を30回以上訪問し熱心に説明 提案活動が実を結び、令和2年度から使用される小学5年生の社会科の教科書への掲載が決定(東京書籍 全国の5割の地域で使用) また、次期教科書改訂やデジタル教科書対応に向けて、教科書出版会社に情報提供や提案を継続 さらに、福井市や坂井市等の小学生に対して、パイプラインの仕組みや役割などについて学ぶ校内外学習会を企画実施し、先進的な農業基盤の様子を紹介 (学習会開催実績:30年度 41校 令和元年度 41校)

令和元年度 福井県職員クレドアワード(知事賞) 受賞者一覧

【協働部門:4件】

所属	受賞者	概要
安全環境部 循環社会推進課	主任 松田 祐民子 企画主査 杉下 左和 主事 高木 瞭	<p>「プラごみ・食品ロス削減の対策強化」 ～事業者と協働し、環境に配慮したライフスタイルを呼び掛け～</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的な問題となっているプラスチックごみによる環境汚染対策として、使い捨てではなく繰り返し使える飲料容器の利用を促進する「マイボトル運動」を新たに全県下で開始し、街頭キャンペーンでの呼びかけや量販店におけるマイボトル専用販売コーナーを設置 大手コーヒーチェーン店や地元喫茶店に対し、顧客が持参したマイボトルに飲み物を提供するマイボトル運動協力店への登録を依頼（協力店：初年度で145店舗 令和2年2月末現在） 食品ロス削減として本県が取り組んでいる食べきり運動について、さらに全国的な展開を目指すため、大手事業者の協力を獲得 イオン(株)、(株)セブン&アイ・フードシステムズ、ワタミ(株)の3社と全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会（事務局 福井県）が「食べきり運動をはじめ食品ロス削減の効果的な推進に取り組む」と共同宣言を発表し、連携して企画や消費者向けの情報発信に取り組んでいくことを全国に発信
健康福祉部 子ども家庭課	主任 森 真紀 企画主査 柳原 太一	<p>「子育て先進県ふくいレベルアップ」 ～市町と協働し第2子以降の保育料無償化を実現～</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度から13年間実施してきた本県の看板事業である「3人っ子応援プロジェクト」をさらに進化させるため、県民ニーズ把握に着手 調査において、子ども2人世帯の負担感が大きいことが判明したことを受け、新たな支援制度創設に向け、協力が不可欠である市町との協議を実施 市町担当課長会議（昨年度から9回開催）や実務者レベルの協議会の開催（令和2年1月から毎月開催）、全市町を訪問しての意見聴取、アンケート実施（昨年度から7回実施）など、市町と意見交換する機会を多く設け信頼関係を構築 協議を重ねた結果、令和2年9月から県内全市町において、第2子以降の保育料等無償化と在宅育児を応援する新たな子育て支援策が開始することとなった。
農林水産部 園芸振興課 農業試験場 坂井農林総合事務所 丹南農林総合事務所 嶺南振興局 農業経営支援部	主任 山元 秀明 主任研究員 土田 政憲 主査 萩原 駿介 主任 菅江 弘子 主任 渡辺 和夫	<p>「スマート農業に向け実証実験を開始」 ～官・民・生産者が協働し農業新時代を拓く～</p> <ul style="list-style-type: none"> 農作業の省力化や担い手不足の解消に向けて、県内農業法人や大学、農機メーカー、県などで構成する「福井県スマート農業推進協議会」を設立し、坂井市、鯖江市、小浜市の3地区においてICTを利用したスマート農業導入の実証実験を開始 坂井地区では、自動走行トラクター等を活用し作業の効率化を進め、輸出用米を加えた水稻、大麦、大豆の3種類を2年で作る超低コスト大規模営農に着手し労働時間の短縮に成功（目標：9時間/10a 実績：7.7時間/10a） 鯖江地区では、ブランド米の収穫増を目指して有機肥料のすき込みを自動走行トラクターで行うほか、ドローンで生育状態を確認し、生育不良の箇所を追肥を行うなどきめ細かい管理体制を構築 小浜地区では、平地と比べて農作業の環境が厳しいため、リモコン式草刈り機や肥料の量を自動で調整する田植え機を導入するなど、省力化を推進 それぞれの地区において、当該職員たちが毎週、現地に足を運び、労働時間削減や収穫・品質向上のアドバイスをを行い、課題解決に向け積極的に関与
嶺南振興局 嶺南プロジェクト推進室	主任 蜂谷 美幸	<p>「観光列車の小浜線乗入れ運行」 ～初めての観光列車運行を協働して盛り上げ～</p> <ul style="list-style-type: none"> 小浜市開催の「御食国・和食の祭典」に合わせ、若狭湾観光連盟等と協力して、京都丹後鉄道の観光列車「丹後くろまつ号」をJR小浜線に初めて乗入れ運行（令和元年10月25日、26日 西舞鶴～敦賀往復 2日間の乗車人数 196人） JR西日本や運行会社と約半年にわたり、週に何度も直接または電話でやり取りし、直前1か月は、ほぼ毎日、関係機関と協議を重ね、運行上の懸念事項を入念に確認し解消 車内では、福井サーモンや若狭かかれいなど地元食材をふんだんに使った料理を提供し、御食国をPR 沿線自治体や女将の会など地域団体とも連携し、停車駅における地元住民による歓迎イベントを企画実施 今回の観光列車運行により、北陸新幹線敦賀開業に向けた地元自治体や団体のおもてなし機運を醸成

令和元年度 福井県職員クレドアワード(知事賞) 受賞者一覧

【創意工夫部門:1件】

所属	受賞者	概要
土木部 丹南土木事務所	企画主査 朝井 範仁	<p>「土木技術者確保のPR動画を自主制作」 ～自らの工夫により土木の魅力を発信～</p> <ul style="list-style-type: none"> 土木技術職員の人手不足が深刻となる中、若者向けの情報発信を強化するため、担当業務でないにもかかわらず、若手技術職員5名が出演する動画を自主制作し、YouTubeにおいて公開 動画では、住民との対話や農家との共働などの「+（プラス）」のアクションを起こすことにより、自分の仕事が大きな形となり完成するという土木の魅力を発信 撮影は、ドローンを用いた空撮により臨場感を演出しつつ、企画構成や編集は自ら行い経費をかけずに制作 動画は令和元年9月から令和2年2月までの間に1,404回再生され、来年度の採用試験申込数の増加が期待できる。（掲載URL：https://www.youtube.com/watch?v=sxRdQ7ejTPI）

【効率化部門:1件】

所属	受賞者	概要
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">★特別賞</div> 教育庁 教育政策課	主任 玉井 久統	<p>「教職員旅費の審査にRPAを導入」 ～事務処理の効率化を図り職員の負担を軽減～</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校教職員の旅費について、これまで各市町が独自の紙の様式を使い、県職員が手作業で確認業務を行っていたところ、RPAソフトによる自動審査を初めて導入 RPA導入にあたり、様式を県下で統一させるとともに、市町の小中事務職員から直接意見を聞き、旅費計算における通勤手当との調整や振込口座との連携を行うためのデータ作成を自動で行う機能を付与 令和2年度からの本格運用に先駆け、令和2年1月から越前市、越前町、おおい町においてテスト運用を開始 RPA導入により、年間約24万件の旅費審査を行う時間が、県教委と小中学校の作業を合わせ年間3,000時間削減されることが期待できる。